



国民の森林・国有林

高齢級ヒノキの有利販売 に向け採材検討会を開催

【長崎森林管理署】

9月15日、雲仙市小浜温泉嶽国有林において、採材検討会を実施しました。現地は高齢級林分97年生及び111年生林で、過去には6m程度の枝打ちも行われた林分です。(平均径級40cm、平均樹高20m)

伐採箇所は、雲仙天草国立公園第1種特別地域に該当することから、これまで伐倒を控えていた林分ですが、環境省と協議を重ね各種規制をクリア、景観に十分配慮

した上で育成受光伐施業を行い、高齢級ヒノキを生産することにしたものです。

生産される100年生を越えるヒノキは希少であることから、有利に販売するために熊本県内の2つの木材市場の担当者を招き、検討会を開催しました。立木の状態などが伐倒しにくかった曲がりや傷り、欠点をどう扱うのか、元玉の余尺の考え方など議論しながら、署・請負事業者・木材市場の認識

を統一し、住宅事情の変化や合板材への傾倒などから、4mを基本に採材する旨の方針を決定しました。

昨年、委託販売した木材は、熊本市の修理に使用されるなど、引き続き社寺仏閣等への特殊用材として活用も考えられることから、木材市場からの積極的なセールの約束して閉会しました。また、当日は矢野彰宏九州森林管理局長にも現地を見て頂き、木肌や色合い、年輪のこみ具合等を確認して頂くと共に、請負事業者への安全指導等も行つて頂きました。

検討会には伐採・搬出に関わる請負事業者の作業員も参加し、ワンストップで市場から木材生産現場へ二ーズを共有する場となり、大変有意義な検討会となりました。



木材市場の担当者による採材方法の指導



伐採木を前に千差万別の検討



矢野局長による安全指導

奄美大島 希少種保護のための夜間 合同パトロールに参加

【鹿児島県森林管理署】

9月13日から、世界自然遺産に登録された奄美大島の森林で、希少種等の捕獲・採取を防ぐための夜間合同パトロールが始まりました。

奄美大島の森林には鹿児島県や市町村の条例などで捕獲が禁止されている昆虫や爬虫類が多く生息するほか、国立公園の特別地域内などでは昆虫等を捕獲するトラップの設置が制限されているものの、違法な捕獲やトラップ設置が後を絶ちません。このため、これらを監視する目的で、毎年関係機関による夜間合同パトロールが行われています。

名瀬森林事務所では14日に奄美群島で一番高い湯湾岳へ続く林道沿いを大和町、環境省奄美群島国立公園管理事務所及び奄美警察署の職員ら5名とパトロールを実施しました。自動車でゆっくりと走りながら、懐中電灯で木の幹や枝などを丹念に確認していきます。途中、観光客のレンタカー車両に出会い「奄美大島の動植物の捕獲・採取の注意」チラシを配布し自然保護への協力等をお願いしま



夜間パトロールの実施状況

した。この日は雨だったためか多くのカエル達（アマミイシカワガエル、アマミハナサキガエル、オットンガエル）が見られました。不審車両や違法な昆虫トラップの設置等は確認されませんでした。関係機関による夜間合同パトロールは10月中旬まで実施されますが、鹿児島森林管理署も引き続き協力をしていく予定です。

様々な取り組み—目瞭然の現地 低コストモデル（次世代造林プロジェクト） 実証団地現地検討会を開催

9月8日、熊本南部森林管理署管内西浦国有林21ろ林小班に設定されている低コストモデル実証団地（10.58ha）において、「令和4年度低コストモデル実証団地現地検討会」が午前、午後の二部に分かれ開催、市町村職員、森林組合、林業事業体および国有林職員等26人が参加しました。検討会にあたり、冒頭九州森林管理局を代表し川戸英騎次長より、「平成29年に設定された実証団地の第1期5年間の成果と第2期から行う下刈省略等に伴う造林木への影響等検証内容について、今回直接見た現地状況と今後収集されるデータを比較して貰い、造林コストの削減に活かして頂きたい」と挨拶されました。

続いて、森林技術・支援センターの岩下正斉森林技術普及専門官から、シカ対策と低コスト造林に着目した次世代検定林、高下刈、単木保護資材と下刈の組合せ、コンテナ苗・普通苗比較、パーパーポット苗、低密度植栽、早生樹、獣害対策比較、天然活力など11試験区の調査結果と今後の取り組みを含めた説明が行われました。



単木保護資材を用いて説明

参加者からは、「スギ植栽箇所と高下刈実施の関連性」「特定母樹の生長量」「コンテナ苗育苗苗期における肥料の扱い」「天然活力ゾーンにおける母樹の位置関係」など様々な意見、質問がありました。最後に、午前・午後それぞれの部で、奥村克技術普及課長、白濱正明森林技術・支援センター所長より、低コスト造林推進に向けた

各地域での普及啓発を含めたまとめの挨拶で全日程を終了しました。
【担当Ⅱ技術普及課】



現地説明に聞き入る参加者

「地域の安全確保に向けた森林情報共有及び長期的な森林の育成に関する協定の情報共有会」

【宮崎北部森林管理署】
8月30日、日之影町役場において、日之影町、五ヶ瀬町、当署三

者による「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」の情報共有及び意見交換会を開催しました。

会には、日之影町から平川誠二農林振興課長、佐藤雅宏課長補佐、井植林政係長、五ヶ瀬町から増永稔農林課長、当署から佐藤修治総括山技術官、原口尚也総括森林整備官、丸岡仁人森林整備官、宮木利浩地域統括森林官、穴山信二森林官、宮崎太守森林技術指導官の計10名が参加しました。

はじめに、宮崎太守森林技術指導官より協定締結までの経緯並びにこれまでの経過等について説明があり、平成29年7月五ヶ瀬町、平成30年8月日之影町と協定締結以降これまで参集する機会がなかったこと、また、各々担当者も異動により替わっているため、改めて協定の内容について再確認を行いました。

り組み等について話題提供をいただき、ごつくばらんな雰囲気の中様々な情報及び意見交換が行われました。

今後、それぞれの担当者間との疎通を図りながらこの会を実施していくことを確認し有意義な会となりました。



情報共有及び意見交換を行う参加者

宗像市及び宗像猟友会宗像市有害鳥獣駆除部会とのシカ・イノシシ被害対策協定の締結

【福岡森林管理署】
8月4日、宗像市と宗像猟友会宗像市有害鳥獣駆除部会と当署において、シカ・イノシシ被害対策協定を締結しました。

締結式には宗像市から伊豆市長外3名、宗像市有害鳥獣駆除部会から眞武部会長外2名、当署から佐藤肇署長外3名が出席しました。冒頭、佐藤肇署長より、宗像市の「さつき松原」国有林では、地域住民や地元企業等による28団体がアダプト制度を活用し、下草刈りや枝落としなどの森林の保育活動を行っていたこと、本協定の締結に対し御礼を述べ、今後地域に貢献できるように取り組んでいく旨の挨拶が行われました。また、協定書への署名後には、伊豆市長より、有害鳥獣対策は対象となる農地等を守る取組と農地等を荒らす有害鳥獣を捕獲する取組が継続的に行われる必要があります。この被害対策協定により、シカ、イノシシの捕獲がさらに進み、農



左から伊豆市長、武丸副部長、眞武部長、
占部事務局長、佐藤署長



協定書に調印された各代表の皆さん

【宮崎北部森林管理署】
8月31日に宮崎北部森林管理古
島勝美署長外5名で株式会社宮崎
森林発電所と株式会社宮崎FCP
川南事業所を見学しました。
松くい虫被害木の有効利用や林
内に存置されている材の利用を検
討するため、設備内容や利用状
況の課題等についてご説明を
いただきました。
宮崎FCP川南事業所では、大

「宮崎森林発電所 及び宮崎FCP川 南事業所（チップ 工場）」の施設視察

林業被害の軽減につながることを
期待している旨のご挨拶がありま
した。さらに、眞武部長より、
森林管理署からのわなの貸与や国
有林野内の入林手続きの簡素化が
なされたので、有害鳥獣の捕獲に
より力を入れて取り組みたい旨の
ご挨拶がありました。
当署では、今後とも地域との連
携を深め、被害対策協定やICT
を活用したシカ等の有害鳥獣の捕
獲の推進に取り組んでいくことに
しています。

型の破砕機（820）を導入し、
樹種を問わず枝葉や根本部（タン
ゴロ）をチップ化して、利用して
いました。また、小型の移動式破
砕機（360）を導入し、山元土
場でもチップ化できる体制を整え
ているとのことでした。しかし、
現在C材の利用が拡大し、材が足
りない状態が続いていることが課
題であるとのことでした。
宮崎森林発電所では、木材チッ
プを燃料としてボイラーを稼働し
タービン回すことで発電する仕
組みをご説明いただきました。燃
焼時に発生する灰を除去する仕組
み等も整えており、環境に配慮し
て稼働されていきました。ただ、木



ボイラーの説明を受ける職員

材供給量が減少しており、灰にな
る割合が高く燃焼効率が高くない
パーク（樹皮）を多く利用しな
ければならないことが課題である
とのことでした。
今回の見学をとおして、木材不
足が大きな課題となっており、未
利用材の活用を検討していく必要
があることがわかりました。また、
林業の現場作業時にも、木材の泥
を落とすことや金属片等のゴミが
混ざらないようにすることが対
応しなければならぬことがある
こともわかり、最終的な利用者の
声を林業の現場に活かしていく必
要があると痛感しました。



燃料として使用される木材チップ

「南九州大学の学生にオンライン講義」

【宮崎森林管理署】

8月30日、綾ユネスコエコパークセンターにおいて、南九州大学人間発達学部・子ども教育学科の集中講義「環境問題演習」がオンライン形式で実施され、綾森林事務所 坂本雄二 首席森林官が外部講師を務めました。

本講義は、「綾町におけるニホンカモシカの持続的保全」をテーマとした課題解決学習で、多様な角度から課題にアプローチして考えることを目的としているため、行政や狩猟者、研究者などのさまざまな立場の者が講師を務めました。綾森林事務所が本講義の講師を務めるのは、昨年度に続き2回目となりました。

講義では、国有林や森林事務所について紹介した後、当事務所管内で実施されている「綾の照葉樹林復元プロジェクト」の取組や国有林でのシカ対策のほか、森林総合研究所九州支所と国有林が共同で実

施している「針葉樹人工林におけるシカ痕跡の広域調査」について説明し、質疑に応えました。森林や林業の知識はほとんどない学生ばかりでしたが、終始興味深く耳を傾けており、造林やシカ対策に関する質問も多く出されました。国有林や森林事務所について、はじめて知ることができて勉強になったとの感想もあり、学生だけでなく当森林事務所にとっても有意義な時間になったと感じています。今後、要請があれば応えて行き、地域に貢献した信頼される森林事務所でありたいと思っています。



オンラインで講義する坂本首席森林官



「国有林をもっと身近に」

石橋 裕史さん

近年のキャンプブームで山や森に出かける人が増加傾向にあり、コロナ渦の影響もあって密を避けて楽しめるレジャーに注目が集まっています。

御多分に漏れず私も山や森に興味を持つようになったのは、キャンプがきっかけでした。焚き火が大好きで海で流木を拾ったり、山に落ちている倒木を集めては木の自然の香りに癒されたり、燃える木の爆ぜる音に安らぎを感じるようになりました。

山や森には人間の体の健康を改善する力が備わっていることにも大変興味があります。デジタル機器に囲まれて暮らす我々は知らず知らずのうちに体に電気を帯びているそうです。そこでアースングと言って、木や土に直接触れることによって体から電気を逃がすことで体への悪影響を取り除くことができるのです。また、森林の中だけでフイトンチッドと呼ばれる木々が放つ自然の芳香によって、すがすがしい気

持ちにさせてくれたりもします。

このような経験からますます山や森に興味を持つようになりました。そんな中で林業を中心とした山の仕事に興味をもつようになり、いろいろと調べていく中で国有林モニターの記事が目にとまりました。

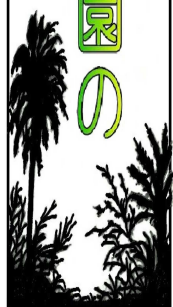
私が国有林モニターになってから数か月しか経ちませんが、国有林が果たす役割について様々な活動報告を拝見していると驚きの連続でした。全国的に様々な活動が行われており、林業として木材を利用するだけでなく災害を防止するために大規模な国家プロジェクトが行われていたり、今も生きている我々のためだけでなく、100年、200年先までを見据えた壮大な取り組みが行われている事を知ることができました。

我々は身近なところでは山や森をレジャーの対象として認識していますが、時に自然の恐ろしさも目の当たりにすることもあります。国有林がどこにあつてどんな役割をしているのか知らない人は多く存在しています。私は国有林モニターになったこの機会を生かし、国有林が担う重要な役割についてより一層学びを深め、地域での活動の中で多くの人たちに伝えていきたいと考えています。このような機会をいただけたことに心から感謝しております。

(沖縄県うるま市在住)

都会の中の憩いの森

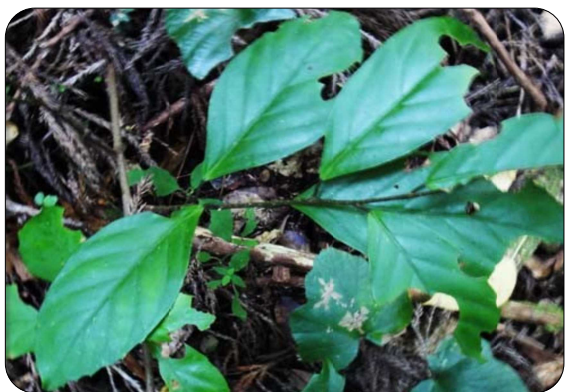
監物台樹木園の
多様な植物



179 イズセンリョウ (ヤブゴウジ科)

花冠は白色、筒状鐘形、長さ約5mm、裂片は短い、小苞は広卵形で鈍くやや円頭。葉は通常まばらに低い鋸歯があります(写真参照)

山林内に生える小低木、葉は互生し、長楕円形、長さ5〜7cm、幅2〜5cm、濃緑面でやや光沢があり、



無毛、通常まばらに極低い鋸歯がありますが、時にはほぼ全縁となり、徒長枝では時に粗鋸歯が出ます。先

は鋭尖頭、基部は楔型で、葉柄は長さ1〜1.5cm側脈は5〜8対、花は雌雄異株。

4〜5月。花序は葉腋に出て総状、



長さ2〜3cm、雄株では時にやや複生する。小胞は線条があり、広卵形、鈍頭、長さ約0.7cm。愕裂片は卵円形、腺条があり、鈍円頭、花冠は筒鐘形、黄白色、長さ約5mm、腺条があり、先は5浅裂。雄すいは5個、果実は乳白色、球形、径約5mm、褐色の腺があります。

開聞岳を登山すると登山口から多

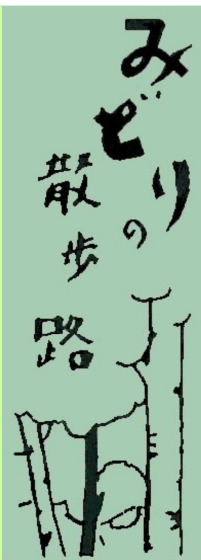
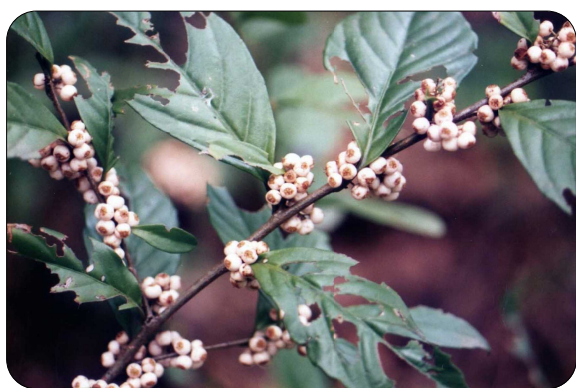
くのイズセンリョウを観察できます。

葉はほとんどが破れています、細かい特徴は観察できません。

名前は伊豆の伊豆山神社の社林に多いことから名づけられました。

森林インストラクター

安楽行雄



国営放送において「につぼん百低山」という番組も毎週放送されるなど今手軽に登山を体験できる「低山ハイキング」がブームとなっている。

私が登ったことのある例をご紹介します。次郎丸嶽(397m) 太郎丸嶽(281m) という低山がある。

こちらの山は国道沿いに狭いながらも駐車場(10台程度)があり、土曜日の午前10時頃ついた際にはほぼ満車という状態であった。そこから弟といわれる次郎丸嶽山頂まで約1時間半、海を眺める絶景を堪能したあと、兄の太郎丸嶽に登り、弟の次郎丸嶽を望むまでに約50分、下山まで50分ほどの行程となった。

初心者でもそれほど苦労なく登れ、実際、老若男女様々なグループとすれ違い気持ちのよい挨拶を交わしながらハイキングできた。皆様も一度ご体験してみたいかがでしょうか。

【Y】